

テーマ とり

しよめい	ちょしゃ	しゅっぱんしゃ	せいきゅうきごう	ないよう
クラバート	プロイスラー／作 中村 浩三／訳	偕成社	943/フロ	十四歳のクラバートは、ある日、へんな夢をみました。十一羽のからすが止まり木に止まっていて、からすたちはじっとクラバートを見えています。その止まり木の左端が一か所あいているのに、クラバートは気になりました。その夢はクラバートを呼んでいるようでした。クラバートは夢に引き寄せられ、荒地の水車場の見習いになりました。
白鳥のトランペット	E・B・ホワイト／作 エドワード・フラシーノ／ 画 松永 ふみ子／画	福音館書店	9-0/ホワ	カナダの森にある沼で産まれた白鳥のルイは産まれたときから声がだせません。行く末を案じたおとうさんはルイのために楽器店から声のかわりにとトランペットを盗んできます。少年サムに助けられ人間のことばのよみかきをおぼえたルイ。トランペット代を返すために、さあ、ルイの冒険がはじまります。ルイの姿は楽しく、児童文学の古典です。
カラスのひみつ ～生態と行動のふしぎをさぐろう～	松原 始／監修	PHP研究社	488	黒くてぶきみ、ごみ袋をつついてごみを散らかすなど、私たちはカラスに対してよいイメージを持っていません。そのようなカラスですが、じつは人間の役に立っているのです。ネズミや大型の害虫を食べてくれているのです。この本で、カラスの生態と行動を知れば、これまでのカラスに対するイメージが変わります。
からすたろう	やしま たろう／文・絵	偕成社	Eホソ/ヤ	とてもちいさかったので「ちび」とよばれる男の子がいました。ちびは、先生をこわがって、なにひとつおぼえることができません。ちびが6年生になったとき、うけもちが、いそべ先生にかわりました。先生は、ちびのことを気に入っていました。先生は学芸会の日に、ちびがカラスのなきまねをすると発表しました。
ふくろう博士のあたらしい家	アリスン・アトリー／さく マーガレット・テンペスト／ え じんぐう てるお／やく	童話館出版	9-0/アート	ふくろう博士は、森のまんなかにつくオークの木のうろにすんでいました。ある夜、がやってきて、オークの木は折れて、家が飛ばされてしまいます。それを知ったグレー・ラビットは、友達といっしょに博士のあたらしい家を探し始めます。グレー・ラビットと森の仲間たちのおはなしで、シリーズはほかにもあります。
ノグチゲラの親子 沖縄やんばるの森にすむキツツキの おはなし	渡久地 豊／写真・文	小学館	488	ノグチゲラを知っていますか。ノグチゲラは、沖縄のやんばるの森だけにすむキツツキのなかまです。木にかけた巣穴で、オスとメスが協力してひなを育てます。風やヘビからひなを守る巣づくりや、子育てのようすが、たくさん写真でよくわかります。タツタラララ…コッコロロロ…という木をたたく音が、今もやんばるの森にひびいています。

よだかの星 —新版・宮沢賢治童話全集5より—	宮沢 賢治／著	岩崎書店	913/ミヤ	みにくい「よだか」を他の鳥たちはいやがります。「たか」は名まえをかえるようにせまります。いったいぼくは、なぜこうみんなにいやがられるのだろう。なんにも悪いことをしたことがないのに、とよだかは悲しみます。そして、ある時、命ある虫を食べていることに、ぞっとしてしまいます。苦しむよだかは、どこへむかうのでしょうか。
小さな赤いめんどり	アリソン・アトリー／作 神宮 輝夫／訳	大日本図書	9－0/アト	ひとりぼっちのおばあさんが、小さな家にすんでいました。あるばん、おばあさんは、ひどいかいぬしからにげてきためんどりを、たすけてやります。めんどりは、パンをやいたり家をかたづけたり、とてもはたらきものです。そして、さいほうもとてもじょうずで、おやしきのおくさんにたのまれたぬいものを、みごとにしあげます。
あひるのバーバちゃん	神沢 利子／作 山脇 百合子／絵	偕成社	9－0/カン	あひるのバーバちゃんは、まちへかいものにでかけました。きょうは、いちごにジャムに、こむぎこなど、たくさんかうものがあります。スーパーマーケットについたら、バターもほしくなりました。あっというまに、にもつがおおくなってしまうました。バーバちゃんはたくさんのにもつがはいるリュックサックもかいました。
森のうそくいどり	松野 正子／さく 鎌田 暢子／え	大日本図書	9－0/マツ	さとちゃんとりょうちゃんはいえでをすることにしました。なぜなら、ふたりともうそをついて、おかあさんにしかられてしまったからです。「ぼく、きょうりゅうみたよ」など、とおくへいきながらはなしていると、うしろから「ぱくつ」というおとがしました。ふりむいてみると、へんなとりがうしろをついてきていたのです。
金のガチョウ	グリム原作 バーナデット・ワッツ／文・絵 福本 友美子／訳	BL出版	エホン/ワ	かぞくからダメなやつといわれているすえむすこがいました。こびとのおじいさんから金のガチョウをもらいます。やどやのむすめが金のガチョウのはねを盗もうとしますが、さわったとたん、手がくっついてなれません。道行く人までもくっついてしまいます。よたよたと7人をつらねて王さまのすむ町にやってきました。
コウノトリのおはなし	マーガレット・ワイズ・ブラウン／さく ティボル・ゲルゲイ／え あんどろ のりこ／やく	長崎出版	エホン/ケ	2羽だったコウノトリは、まもなく4羽になりました。ひなが2羽かえたのです。ここ北の国のハンガリーでは「コウノトリが巣をつくる家には、しあわせがおとずれる」という言い伝えがあります。コウノトリは冬をすごすために南にむかいます。そして、春がきてまたもどってくるのを、みなこころまちにしています。